

令和元年度舞鶴工業高等専門学校外部評価委員会 議事要旨

1. 日 時 : 令和元年11月25日(月) 13:00 ~ 15:00

2. 場 所 : 舞鶴工業高等専門学校 大会議室

3. 出席者 : 外部評価委員会委員(敬称略)

長岡技術科学大学	学長	東 信彦
明石工業高等専門学校	校長	笠井 秀明
舞鶴市中学校長会	会長	堺谷 正人
舞鶴市市民文化環境部長	部長	西嶋 久勝
京都新聞舞鶴支局	支局長	長尾 康行
舞鶴工業高等専門学校後援会	会長	日下 勢津子

学内出席者

内海校長(評価委員会委員長)、高谷教務主事、小野学生主事、
仲川寮務主事、川田専攻科長、四蔵評価委員会副委員長、
玉田地域共同テクノセンター長、桑原事務部長、窪田総務課長

欠席者 : 外部評価委員会委員(敬称略)

株式会社日進製作所 人事部長 室田 真司

4. 校長冒頭挨拶

議事に先立ち、内海校長から挨拶があった後、議題について説明があった。

5. 委員の紹介

四蔵評価委員会副委員長より委員の紹介及び資料の説明があった。

6. 委員長選出

本校外部評価委員会規程第5条に基づき、委員の互選により東委員が委員長に選出された。

7. 状況説明・質疑応答

(1) 舞鶴高専について

内海校長より、配布資料に基づき説明があった後、次のとおり質疑応答が行われた。

笠井委員より、学生の英語力向上のためにどのような取り組みをされているか質問があり、内海校長から学生が英語を使用しなければならない状況を作ることが大切だと考えて取り組みを実施している旨の回答があった。また高谷教務主事から4年生の海外研修旅行における現地での英語による交流やTOEIC受験等の実施状況について補足説明があった。笠井委員から、可能ならばより低学年の頃から英語の必要性に気づかせる取り組みをされてはどうかという意見

があった。

長尾委員より、入学者の出身地域に関してどのような認識をしているか、公開講座や出前授業の対象者や対象地域はどのようになっているか質問があった。内海校長から現状認識に関する説明があった。玉田地域共同テクノセンター長から、出前授業は基本的に市内の小中学校であるが、要請があればそのほかの地域でも可能な限り実施しているとの説明があった。

笠井委員より、高専祭の実施状況について質問があった。小野学生主事から参加者数、特に中学生とその保護者の参加者数の状況と入試広報に関する説明があった。

(2) 検討課題の状況について

四蔵評価委員会副委員長より、配布資料に基づき平成30年度外部評価委員会における委員の意見に対する対応状況について説明があった後、次のとおり質疑応答が行われた。

堺谷委員より、進路の意識がまだ薄い中学1年生に対して進路に関するPR活動をされたら生徒とその保護者の印象に残ることから非常に効果的ではないか、また中学校の教員に対して舞鶴高専をより知ってもらう活動をされてはどうか、例えば、中学校教員が舞鶴高専で研修する制度ができないかとの意見があった。

西嶋委員より、舞鶴高専と舞鶴市は様々な面で連携した活動を行っているが、今後さらに京都府北部地域や福井県の近隣地域等の地域課題を学生とともに解決していくような取り組みを進めてほしいとの意見があった。

長尾委員より、舞鶴市の周辺市町村に住む子どもたちはまだまだ舞鶴高専のことを知らないと思われるので、それらの地域に積極的にPR活動を進められてはどうかとの意見があった。

(3) 教務、国際交流について・学生支援・寮生活について・産学連携について

高谷教務主事より教務、国際交流について、小野学生主事より学生支援・寮生活について、玉田地域共同テクノセンター長より産学連携について、それぞれ配布資料に基づき説明があり、次のとおり質疑応答が行われた。

堺谷委員より、出前授業を中学校にて実施する時は放課後時間帯を提案されたら中学校側は受けやすいうえ、熱心な生徒が集まるためより効果的ではないか、また舞鶴高専の活動はまだ周知不足と思われるため、写真主体で数ページ程度の広報誌を毎月発行して中学校に配布する活動をされてはどうかとの意見があった。

西嶋委員より、日常的な活動の風景、特に楽しそうな学生の様子等をインターネット経由で発信されてはどうかとの意見があった。

長尾委員より、公開講座や出前授業、オープンキャンパスには学生がPR活動に参加しているのか質問があった。玉田地域共同テクノセンター長より、むしろ学生が主体となって実施している旨の説明があった。続いて長尾委員より、舞鶴高専は府北部にとって財産だと思うが、子どもたちは体験しないと内に秘めた興味関心に気がつかないと思うので、子どもたちにその機会を提供できるようなPR活動を進めてほしい旨の意見があった。

日下委員より、中学校の教員に対して、舞鶴高専入学後の進級状況といった具体的な実情を

説明されてはどうかとの意見があった。

東委員長より、教員の時間管理の現状について質問があった。桑原事務部長より、舞鶴高専の教員は変形労働時間制の勤務形態により時間管理を行っている旨の説明があった。

(4) 総括

東委員長より以下のとおり総括が行われた。

- ① 地方人口が減少する中で、舞鶴市だけではなくより広い地域に対する PR 活動、特に小中学校生を対象として理系の興味を喚起させるような PR 活動を行ってほしい。
- ② 電子版出席簿のような新しい取り組みを導入する際は課題も多いと思うが、業務効率化の観点から今後も継続してほしい。
- ③ COC 事業において構築された地域とのネットワークを維持してほしい。
- ④ 国等の外部資金や長岡・豊橋両技科大の制度を上手く使いながら高専が中心となって地域の中小企業と産学連携できる取り組みを進めてほしい。

8. 校長閉会挨拶

内海校長から、お礼の言葉が述べられ閉会となった。